

第5回下川町総合計画審議会(全体会議)会議録

と き 平成30年10月17日(水)

18:30～20:50

ところ 総合福祉センター「ハピネス」

出席者(委員): 筒淵委員、伊藤委員、遠藤委員、加藤委員、濁沼委員、瀬川委員、
渋谷委員、川島委員、西村委員、長田委員、高橋委員、山川委員、
麻生委員、及川委員、中田委員、山田委員、三津橋委員、山崎委員

出席者(町): 町長、副町長、松野尾教育長、中岡課長、宮丸課長、桜木課長、
栗原課長、堀北課長、市田課長、白石園長、多田署長、平野園長、
三条事務長

(事務局) 木原課長、田村課長、清水主査、穴戸主査、佐藤主事

(1) 第6期下川町総合計画(素案)の概要説明

■基本構想(案)

町 : 【資料1】基本構想(案)説明

委員: 林道路網の高密化とはどういう意味か。

町 : 1ヘクタールあたりのメートル数で表している。現在48メートル。全国平均は10メートル前後。林道路網密度が上がると生産性が上がる。

■財政運営基準・前期財政計画(案)

町 : 【資料3】財政運営基準及び前期財政計画説明

委員: 1年間の短期的な歳入歳出の動きはわかった。しかし建物の維持管理費がどうなっていくのか、財産がどうなっていくのかわからない。全体像を見てわかるようにするためにも、貸借対照表のような感覚を用いるのはどうか。

町 : 貸借対照表も作っている。下川町の場合資産は新しいものが多く、状態もいい。しかし、イニシャルコストは補助金で対応できるが運営の負担が大きくなっている。維持管理費も大きくなっている。施設カルテなども作り、今後公共施設の似通っている施設の整理を行い、施設管理費の改善に力を入れていきたい。

委員：財産の未来がどうなっていくのか見えてこない（維持管理費など）。歳入歳出のよ
うな短期的な動きしか審議委員は見えないため、今後どうすべきか考えるために
も長期的な見え方も共有していただきたい。

町：今まで目的別、性質別に支出分けしていたがどこにどれくらいのお金がかかって
いるのかわからないため、どこが改善すべきかがわかるよう、歳出の内訳をソ
フト事業、ハード事業、補助金事業など9つの支出で分けた。

委員：審議会では事業に対する意見をすることによって、事業を行わないなどの決定はで
きないのか。

町：意見をいただいて、いただいた意見を受けて今後検討していく。

町：答申の中で述べていただければ、検討していくが、必ずしも要望通りにならない可
能性もある。

委員：チョコレート事業は事務事業か。

町：役場が町として行うものは基本事務事業になる。

委員：財政難の中だが継続事業が多い。これでプライマリーバランスがたもてるのか。

黒字になるのか。現状維持の圧力がかかっているのでは。また、財政がわるくなっ
た原因を調書に書き込み、それを審議する形を今後つくっていくのはどうか。町の
成長発展に向けて、誰が判断し進めていくのか。

町：最終的に町長が議会に提案し進めていくことになる。

委員：財政が悪いことをもっと強く多くの町民に言っていかなければならない。危機感を
しっかり共有しないと、町民の議論もあまり機能しなくなる。無関心層の町民も動
かさなければならぬ。また、大型事業をやる場合そのリスクを事前に審議する場
を作っていかなければならないのではないかと。

事業調書の目標や活動指標があるのとないのがある。計画を行い実行し、それを繰
り返す中でその間にある検証が甘いのではないかと。検証がしっかり行われるような
指標づくりをしていかなければならないのではないかと。

町：今後指標も含め検討していく。

（２）部会審議スケジュール及び部会審議の進め方等について

町：当日資料 1.2 説明

質疑等意見なし